

法話会について

平成十七年六月二十日、福島県長楽寺住職中野重孝老師をお迎えして、法話会が開かれました。十年に一回の行事でしたが、約八十五名の参加者があり、一時間三十分のお話でしたが、貴重なお話を聞かせていただきました。内容は明るい家庭仏教の確立があるというお話がありました。一、しずかに坐る（静かな心）。二、み仏を拝む（目に見えぬ父母の願いに、私達の毎日は支えられている）。

三、おしえに生きる（今を大事に生きる生き方）。四、まごころに生きる（願樂がんらく）仏の生き方を自分の生き方とすること。

身をつつしみ欲に溺れず、暖かき心を持って、人々と交わり、常に生き生きとして心しずかなるその人に仏の姿



長楽寺住職 中野老師

を見る。等、いろいろと大切なお話をしていたきました。ご多忙の中ご来山していただき、お聞きいただいた檀信徒の皆様ありがとうございました。



法話会 檀信徒の皆様



おことば

曹洞宗管長 宮崎突保

世界は今、国境を越えた地球規模の関わりの上に成り立っています。その関わり方に「人権・平和・環境」の諸問題を解く鍵があるのです。

曹洞宗は、本年度も信仰生活の実践を「同事業」と定めました。

『修証義』に、「海の水を辞せざるは同事なり、このゆえに、よく水あつまりて海となるなり」との教えがあります。海はいかなる水もこばみません。こばまぬことが同事であり、同事なるがゆえに大海となるのです。

「同事」は、苦しさや悲しさを共感し合える「同苦・同悲」の心、理解と協調の世界を指し示しております。

人は皆、幸せを望みながら、民族や宗教、様々な立場の違いによって悲しい争いを続けています。しかし、こばみ合い争い合う憎しみの連鎖は、決して幸せをもたらしません。関わり合いの上に成り立っている世界は、理解し協調し合うことでしか一つになれないのです。

世は正に混迷の時代です。宗門の信仰に生きる私たちは、

人と人、国と国、人と自然との関わりを、この「同事」の実践に見出そうではありませんか。

「同事」は、この世の全てが、授けた命を共に喜び合える、心おだやかなる世界、ひかり輝く大海を実現する仏の道であります。

殺すことなかれ 殺させることなかれ
差別することなかれ 差別をゆるすことなかれ
美しき地球と未来を 子どもたちに

この願樂の実践は、「人権・平和・環境」の諸問題を解決する確かな歩みであります。今日ただ今から一歩を進めてまいりましょう。

南無釈迦牟尼仏

編集後記

今年もお盆がやって参ります。毎年同じ、お盆が家中で迎えられる事が、何の変わりもないようですが、大切な事であり、幸な事であると思われまします。お読みいただきありがとうございます。何かご意見、お聞きになりたい事がありましたら、お電話下さい。お待ちしております。いつも檀信徒の皆様には、ご協力いただき、感謝いたしております。